令和５年度 第４回キャリア教育検討会議　委員発言要旨

令和５年 12 月 25 日

委員名	発言要旨
池ヶ谷委員 (静岡産業大学)	・本プログラムは、学生も受入企業にも、学びの場所になることが大事である。 ・実際に働いている人と接することで、静岡で働くことのメリット、静岡でのキャリアについて、衣食住を含めた様々な側面における発見があることを学生に伝えたい。 ・企業が今の学生はなぜこういう質問をするのかを理解し、その後の各企業の対応戦略に役立てることとなれば、参加企業側のメリットになる。
宇賀田座長 (静岡大学)	・学生は、無関心の手前に不安があり、不安から無関心に移り、無関心から共感を経なければ興味には到達しない。 ・企業と学生とでは「興味」という言葉に対する解釈が異なっており、学生は興味の解釈の幅がとても狭い。学生は、企業が求人票に記載する「興味」は、本格的な熱量を持っている学生を対象としていると認識していることが多い。
小野委員 (しずおか焼津信用金庫)	・自分が学生の立場に立ったとき、難しく壁が高いものを見せられるより、自分でもできるというところを見せて説明してもらった方が受入れやすい。 ・仕事で重要なのは、社員と良好な関係を築くコミュニケーション能力であったりする。フィードバック等でそのような方針を示したい。
近藤委員 (ELFIE GREEN (株))	・(広報について) 大学生に広く当てはまり、共感してもらえるような文面を加え、一人でも多くの学生に身近に感じてもらいたい。 ・学生に無関心から共感に進む一歩を踏み出してもらうという目的を持って行うことで、取組全体が一丸となり、成果が出る。
鈴木委員 ((株) ｻﾝﾛﾌﾄ)	・事後学習に企業が参加することで、県全体でのキャリア教育について、企業、学生及び運営側ともに学びの場にできる機会になる。 ・他のイベントとの差別化を図らなければ、参加を迷う学生が多い。どのような学生に本プログラムが向いているかをうまく伝えたい。
松浦委員 (静岡文化芸術大学)	・企業側の求めていることと学生の求めていることに違いがあるということが根本的な問題である。フィードバックでは、そのような認識の違いを埋められるようにしたい。 ・学生には、会社案内等の表面的なものを見るだけでは読み取れない、企業それぞれが持っている熱い思い等をうまく伝達できるとよい。
望月委員 (常葉大学)	・本事業の対象となる１・２年生は、業界や業種について理解していない学生が多い。受入企業には、同じ会社内にも様々な仕事があること、県内及び日本全国での業界の現状を学生に説明してほしい。 ・県内企業についてよくわからない学生にとって、本プログラムが効果的に役立つといい。